

果樹苗木の植え方

伊藤 奎 太郎



間もなくリンゴ、梨等の苗木類の定植が近付いて来ます。どのようにして苗木を植えた方が良いでしょうか？とは誰しも考えることです。果樹は一度植付けられますと半永久的作物ですのでスタートは慎重に検討の上、行なうことが大切です。

次に果樹苗木の植付けについて、簡単に述べてみましょう。

一 苗木の購入について

(1) 栽植すべき土地条件に適合した種類、品種を選定すること

例えば、北海道のような寒い地方では、先ず耐寒力が問題となります。果樹の種類と耐寒性との関係を見ますと第一表の通りです。

さらにその種類によつても品種により耐寒力が異なります。リンゴについて見ますと、国光などは青森県では良く結実し良い実を成らせますが、北海道などでは、南部の一部を除き、商品価値のきわめて低い果実しか収穫されません。この反面、酸っぱ

いリンゴの代名詞とさえいわれております。旭は、北海道以外では確かにそのような事実もありましようが、北海道産は、貯蔵力のある食味のきわめて良い美しい果実を収穫できます。

概して申し上げれば、暖かい地方程果実は大きく甘味も増しますが貯蔵力はありません。これに対して、冷涼な北海道では、果実は余り大きくないが、貯蔵力に富む味の良い果実が収穫されます。りんごでは前記の旭の外、デリシャス系、紅玉等、梨では、長十郎等が好例です。次に参考迄に、北海道における地方別の品種の栽植割合を表示

第一表 果樹の種類と耐寒性

(註 落葉期における地上部の耐寒力)

栽培限界温度	果 樹 の 種 類
零下二〇度℃	桃、葡萄
〃 二三〃	菓子クルミ、梅
〃 二七〃	日本梨、桜桃、日本栗
〃 二七〃	支那梨、洋梨、李
〃 三〇〃	リンゴ、杏
〃 三五〃	クラブリンゴ、大玉クスベリ

いたしますと第二表の通りです。次に葡萄について見ますと、現在北海道では挿木苗が大部分使用されておりますが、特定の砧木を使用した接木苗を使用いたしますと熟期を早めることができます。また品種的にみましても従来のカメルス、デラウェア、ナイヤガラ以外に、黒の大きいフレドニア、白の大粒のポートランド等の極早生品種も出てきましたので、一部栽植を試みられることも考えられます。このように、いろいろと環境条件と品種の特性を上手に組み合わせることにより有利な経営を行なうことができます。

(2) 品種、系統の明白な苗木を購入すること

購入の際、品種の誤つた苗木を購入して収穫期に入つてから気がついてもおおそい。多少高価でも信用のある苗木業者から購入すべきです。

(3) 病害虫の附着していない苗木を選ぶこと

苗木によつて伝染する病害虫は第三表のように大変多いものですから注意して下さい。

(4) 地上部が太くがつしりとした細根の良く出ている苗木を選ぶこと

(5) 苗木の準備は、たとえ春植えの場合でも秋に準備するように心掛けること
なお春植の場合、秋に購入しましたら第一図のようにして越冬させるべきです。

二 苗木到着後の処置

苗木が到着いたしましたらただちに荷を

ほどき、仮植する。特に春先は非常に乾きますから必ず実行して下さい。この際土の上から水を十分にかけて下さい。

三 定植時期

果樹の定植時期は、秋おそく北海道等では十月下旬から十一月中旬頃迄か春融雪早々が良い。特に雪が多くて枝折れのおそれのあるところ、また、雪がすくなく土が凍るような時や、火山灰や黒ボク地帯等で秋霜柱が立ち根が浮き上るようなところでは春早く定植した方が結果が良いようです。

第二表 北海道内地方別リンゴ品種配
合基準(%)

品 種 名	道全般	南部	中部	北部
アールレー				
紅玉(五八号)	配合は別定	同上	同上	同上
早生旭	めす			
小計	五	五	五	五
中生				
旭祝	二四	一五	二九	四〇
小計	三〇	二五	三五	四五
晩 生				
国光	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
紅玉	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
デリシャス系	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
ゴリンデン	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇
小計	六五	七〇	六〇	五〇
合計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

第三表 苗木で感染する病気

果樹の種類	病気名(主なもの)
リンゴ	紋羽病、腐爛病、根頭癌腫病
梨	紋羽病、黒星病、根頭癌腫病
葡萄	紋羽病、黒星病、根頭癌腫病
梅、李、桜桃	根頭癌腫病

第四表 果樹の種類と一〇アール当り
栽種本数(約一反)

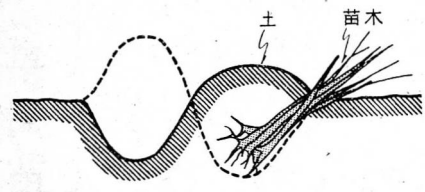
種類	栽 植 距 離	当り本数
リンゴ	一〇畝×一〇畝	一一一五本
梨	八〇畝×八〇畝	二〇一五本
ブドウ	六〇八畝×六〇八畝	三三三二本
桜桃	八〇畝×八〇畝	二〇一五本
桃	六〇八畝×六〇八畝	三三三二本
李、梅	六〇八畝×六〇八畝	三三三二本

四 植穴について

植穴の準備は、おそくとも定植期の一カ月前位に完了すべきで、たとえ春植えでも秋に行なうべきです。

栽植距離は、最近では間隔を広くとり、日光を十分に投射させ樹体の生育をはかるようになってきました。主な種類の栽植距離は第四表の通りです。

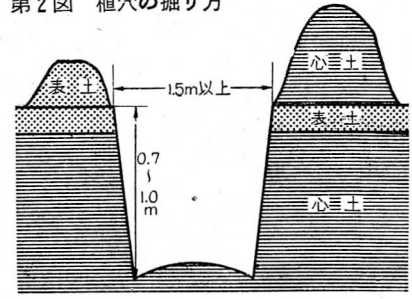
第1図 苗木の伏せ方



さ七〇センチ一畝、直径は一・五畝ぐらいい必要といたします。

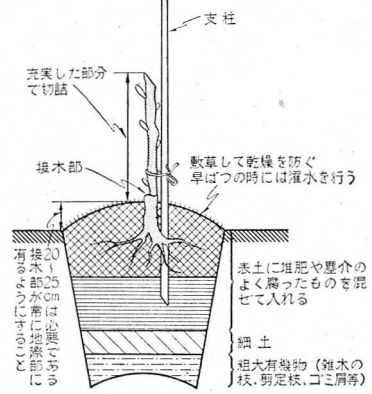
植穴の様子は第二図のように掘り、第三図のように下に粗大有機物(枯柴)を土と混合しながら入れてよく踏みつけます。その

第2図 植穴の掘り方



植穴は可能な範囲で大きい程よい。心土が甚しく粘質である場合は有機質を穴に入れて埋める。その際心土と表土を区別して掘り上げ、穴の周囲に堆肥や厩肥をよく混ぜて入れる。粗大有機物(雑木の枝、剪定枝、ゴミ屑等)を20〜25cmは必要である。接木部が帯に地際部に落ちないようにする。

第3図 苗木の植付方法



六 植付の注意

- (1) 苗木の根が乾燥気味の場合は、植込みの一日前位から根を水に浸し十分に吸水させます。
- (2) 根を植える前、石灰乳(水二〇〇に生石灰を四キ)に一〇分内外浸漬し根頭瘡

必要といたします。

ブドウのプライトンは、他品種との混植を必要といたします。

- 桃 倉方早生 白鳳、大久保
- リンゴ 祝 旭 授粉品種
- 紅玉 祝、旭
- デリシヤス 祝、紅玉

3 開花期が同一時期であること

混植方法は主目的品種三に対し一の割合位が適當です。

一例を上げると次の通りです。

- 1 授粉樹としての条件は次のとおりです。
- 2 授粉品種であること
- 3 花粉の多いこと、さらに花粉が正常であること(リンゴ生娘等の如き三倍体は不向です)

五 品種の混植について

果樹は同一品種間では交配しないものが多いので、異なる品種を交配させるために、花粉提供用に他品種を授粉樹として混植すべきです。

上に堆肥を入れ、その際過磷酸石灰と加里等を混合しますと活着に好影響を及ぼします。この際硫酸等は使用しない方がよい。

七 その他

- (1) 活着後も乾燥の烈しい時は敷葉の上から水をたつぷりかけ、時折り追肥を行ない、枝葉の生長をはかり早期に樹体を完成させるべきです。
- (2) 他の作物を間作する時は、樹を中心として一畝ぐらいいけて間作をして下さい。
- (3) 以上で果樹苗木の植え方についての説明を終りますが、本秋雪印種苗で取扱いたします苗木の種類と特性及び価格は別表の通りでございますのでご覧下さい。(雪印種苗、営業部)
- (4) 腫病等を予防いたします。
- (5) 根の剪定は、切断面を切り揃える程度で、極端に切り詰めないようにいたします。
- (6) 地上部は、根とのつり合いを保つため、切りつめた方が活着のために好結果をもたらします。切りつめる長さは、主枝の高さと関係しますが、だいたい、リンゴでは八〇〜九〇センチ、桃などでは七〇センチ、ブドウは三〇センチが適當です。
- (7) 植付けには、根を十分拡げて土かけ致します。覆土はだいたい接目がかくられるくらいが適當です。この時土を足で軽く踏みつけ、水をたつぷりかけて土をおちつかせる方が活着に良い結果を与えます。
- (8) 植付け後、ただちに敷葉をし、支柱を立てて風による動揺を防ぎます。
- (9) 硫酸等の化学肥料は、定植の時は控え目にし苗木の活着後は追肥として水に溶かして水肥として施用する方が効果的です。